

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403756		
法人名	(有)ヘルパーステーション小川		
事業所名	(有)ヘルパーステーション小川 ひまわりの家		
所在地	〒979-3125 福島県いわき市小川町福岡字飯盛37番地の1 (電話) 0246-83-1808		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年5月29日	評価確定日	平成20年7月11日

【情報提供票より】(平成20年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	15人	常勤2人, 非常勤13人, 常勤換算	6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	16,000円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草野医院、作田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いわき市の北西、小川町の山間部にある1ユニットのホームである。併設事業所として、認知症対応型通所介護事業所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所が隣接してある。同一敷地内には看護師だった運営者の自宅があり、職員はいつでも困ったときに連絡をすることができる。ホームの裏山では季節ごとに山菜等が採れ、利用者と一緒に採りに行くことがある。また、ホームの周りには季節ごとの花が咲き乱れ、自然の豊かさを感じることができる。このホームでは、希望者の終末期に対応できるように事業所の指針を作成し、利用者や家族の思いを大切にしながら取り組んでいる。重度化した利用者でも入浴できるよう、お風呂場を広めに作り、工夫した造りとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価で取り組みが必要だと判断された「食事を楽しむことのできる支援」の項目で、同じ食材が続かないよう献立を工夫するように、との指摘であった。この項目については、職員全員で検討しながら献立を立て改善してきている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が評価の意義や目的を職員にわかりやすく伝え、全職員で検討しながら取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>推進会議のメンバーは区長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター、家族代表等にお願ひし、概ね2ヶ月に1回開催している。会議の中では、グループホームの概要、見学、利用者の状況、ホームの理念、外部評価結果等を説明している。委員からは「グループホームはなぜ9名なのか、せっかくの施設がもっていない」「同じ保険料を支払っているのに、サービス実施主体がない地域は不合理では？」等と忌憚のない意見が出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対して各担当職員は手紙を書き、利用者の近況を報告している。利用者の状態変化については、すぐに管理者から家族へ電話等で報告している。職員は、家族とのコミュニケーションの重要性を理解しており、毎月支払のために訪問する家族へ近況等を伝えている。4ヶ月に1回の家族会では、家族だけで意見交換し、代表者がまとめてホームに伝えるような体制になっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>オーナーは地域の集会には可能な限り参加し、地域との関わりに努めている。歩ける利用者が祭りに参加したり、子どもみこしがホームを訪れたりしている。また、地域の老人会の依頼を受け介護保険の説明会や認知症の勉強会等を開催し、地域との関わりを大切にしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域や家族と交流を持ち社会との交流の場となることを事業所理念の柱の一つとし、「尊厳」「生き甲斐」「質の高いケアの提供」「交流」と4つの柱で理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティングの際、管理者が職員に理念を掘り下げて話しており、職員は日々の支援の中で意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として地域との交流の重要性を十分理解しており、歩ける利用者は祭りに参加したり、子どもみこしの訪問を受けたりしながら、地域と交流している。運営者や職員は地域内で生活しており、地域の集会には可能な限り参加し、地域との関わりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解しており、今回の自己評価は職員全員で取り組んだ。昨年の外部評価の中で取り組みを期待したいとされた部分についても皆で話し合い献立の改善等をした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域のメンバー（区長、民生委員、長寿会会長）の方々にグループホームそのものを理解して頂くために時間をかけホームの概要、利用者等の状況、ホームの理念、外部評価結果等を説明した。概ね2ヶ月に1回の開催となっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月職員が、利用者個々の近況を手紙で報告している。利用者の健康状態の変化についてはその都度電話で連絡している。また、職員は支払いの際に訪問する家族へ利用者の様子を伝えることとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料支払いで訪れた家族へ利用者の様子を伝えながら、家族が意見や要望等言いやすい雰囲気となっている。また、家族会を4ヶ月に1度開催し、気軽に意見を出してもらうよう努めている。苦情等は特に出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。家族の転勤により1名の職員が辞め、新しい職員を採用した。馴染みの職員が見守りながら信頼関係が築けるよう支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はなるべく多くの職員が参加できるよう配慮している。参加した職員は、ホームで伝達研修を行っている。また、内部研修は、新任と現任に分け行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者がグループホーム連絡協議会に参加し、他のホーム職員と情報交換する機会がある。職員は、近隣のホームと相互訪問をし交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から野菜の切り方や料理の方法等を教えてもらいながら、お互いに支えあいながら生活している。季節ごとの食べ物等をどのように調理したらいいのか教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの会話の中から利用者の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。困難な場合、家族や友人等からも情報を得るようにしている。利用者本位に支援できるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の用紙の一部を使い利用者、家族の思いを記録し、それを基に個別カンファレンスを開催し、職員の意見を取り入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化がある場合は、随時見直しをしている。また、計画終了時には計画の評価をし、定期的に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同行や職員の通院介助等で利用者がホームの協力医や利用者のかかりつけ医の受診ができるような体制となっている。重度化した利用者へは往診で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用者や家族へ説明し取り組んでいる。今までに家族と話し合いながら終末期を迎えた利用者が3名いた。事業所として医療連携体制加算を取っているが、家族からまだ同意書が取られていない。	○	医療連携体制加算をとっているため、文書で利用者や家族の同意を得る必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切に丁寧な言葉掛けし、対応している。個人情報利用同意書も個々に取り交わされており適切な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で歩ける利用者さんと一緒に裏山に山菜を採りに行ったり、部屋で食事を摂りたい利用者へは部屋へ食事を運び利用者の希望に対応している。一人ひとりが望む過ごし方になるよう適切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業（下準備、調理、後片付け等）の中で、できるだけ利用者の力を発揮できるようにしている。収穫した畑の野菜やスーパーで買った食品を使い、食事作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めているのではなく、利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行い、時間帯も本人の意向を大切にしている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮し、言葉掛けを工夫したり、気の合う職員が対応したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の残存機能が維持できるよう、一人ひとりの趣味の継続を支援している。詩を作ったり、習字を書いたり、絵を描いたり、また、スポーツを楽しんだり得意分野で力を発揮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	ホームの近くであれば職員と一緒に外出しているが、墓参り、温泉、外食等は家族や友達の協力を得ながら、外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵を掛けないで対応している。利用者が孤立しないように職員が見守っており、各居室も施錠はされていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施しているが、地域の協力が得られるような働きかけはされていない。さらに、非常災害時に必要となる食料や備品等も準備されていない。	○	今後は、様々な状況を設定しながら避難訓練を実施し、運営推進会議の委員にも呼びかけて地域の協力体制の整備に取り組んでほしい。また、災害時の備蓄も準備されるよう望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の管理表にて食事量や水分摂取量を管理している。特に水分の摂取については何種類か準備して好みのものを選択してもらえよう工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である食堂は花が飾られ明るく清潔に保たれている。調理をする音、ご飯の炊ける匂い等を利用者に感じてもらえるよう工夫している。毎日のホーム内清掃等により気になる臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者や家族に話し、使い慣れた物を持ち込んでもらい生活している。机、椅子、写真、本、アイドルの写真等を持ち込みそれぞれの要望に即した環境となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 (有)ヘルパーステーション小
川 ひまわりの家

記入担当者名 日下部 弘子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。